

将来は“わからない”からこそ面白い

野村綜研（上海）諮詢有限公司
北京分公司
主任コンサルタント

板谷 美帆 氏（高44期）



1992年 立川高校卒業
1992年 中国・上海に語学留学
1998年 中国・上海 華東師範大学中文科中国言語文学専攻 卒業
同年 中国ビジネス関連コンサルティング会社入社（東京勤務）
2003年 日系電子部品メーカー中国現地法人入社（北京勤務）
2011年 野村綜研（上海）諮詢有限公司北京分公司 入社

私は今、中国北京に暮らしています。野村総合研究所の中国法人でコンサルタントとして働いています。中国生活は今年で25年目を迎えます。

部活は、野球部のマネージャーをしていました。練習場の確保（ちょうど校舎改築中でグラウンドが使えませんでした）、練習試合のスケジュール調整、試合記録の統計など、裏方として貢献できることに喜びを感じていました。立高祭、合唱コンクールなどの学校行事も、時間のやりくりをしつつ、みんなで真剣に、時には衝突しながらも何かを作り上げることに楽しさを感じていました。勉強面は、文系理系、受験科目を問わず多くが必修、さらに選択授業…と教科が非常に多かったのですが、多くの個性的な先生方、卒にとらわれない授業で、今から考えるとそこには、様々な知識に触れ、経験の幅を広げる機会があったと思います。そして、当時は第二外国語があり、英語とは全く違う言語を選ぼうと何気なく中国語を選択したのが、私の人生の大きな契機になりました。

立高生活を満喫したおかげ？で、ほぼ想定通り浪人生活を始めたばかりの5月に、縁あって中国北京・上海を旅行する機会があり、初めて中国を訪れました。今から考えると1992年（約30年前！）の中国は、日本から見ると天安門事件から数年しか経っておらず「隣のよく分からない国」であり、経済水準も低く、遅れたところ、不便なところが目につきましたが、とてもエネルギーで、逆に日本と違うところが面白く、不便なこともそれをどう乗り越えるか力を試されているような、チャレンジする楽しさがあるように感じられ、いきなり上海留学することに決めました。とりあえず一年のつもりが、そのまま中国で大学進学することになり、社会人になってからも、一貫して日中ビジネスに携わっています。



北京立高会

コンサルタントとは、簡単に言うと様々な課題に対し、現状把握・分析を通じて解決策を考える…そんな仕事です。世の中は日々変化しており、知らないこと、分からないことがたくさん出てきます。様々な領域のテーマに取り組む幅の広さと好奇心の強さ、そしてどうにか課題解決しようとする意識と思考力、プロジェクトを成し遂げようという意思…これらの基礎は、立高で培われたものだと思います。

また、立高のOBOGとの繋がりも財産です。北京にも分かっているだけで立高OBOGが5人ほどおり、定期的に集まっては立高の思い出話に花を咲かせています。立高には、同窓だというだけで世代、立場を乗り越える何かがあります。

皆さん、三年しかない立高生活です！自分がやってみたい、面白そう、楽しいと思う気持ちを大切に、何ごとも貪欲にチャレンジしてみてください。「立高で学ぶ」ことが、今後どのような縁や人生に繋がり、「立高での経験」がどのように役に立つか…などということは、今はわかりません。社会人になってから振り返ると、野球部マネージャーの仕事は、秘書業務や経営管理業務に繋がっていたな、行事での経験も経営企画・プロジェクト運営などの業務に役立っているななどと思いますが、当時はそんなことは考えていませんでした。そして第二外国語で中国語選択した時には、将来中国でこんなに長いこと働くことになるとは思っていませんでした。

皆さんが社会で活躍する頃の社会や世界は、現在とは違うものになっていることでしょう。90年代初頭に私が初めて見た中国が、今日のような経済成長を遂げるとは考えても見なかったように。今の常識や知識が、今後いつまでどの程度通用するかどうか分かりません。ただ言えることは、立高での経験は人生の糧となり、何でも自ら行動しているうちに、道は開けていくということです。「わからない」ことだらけの世の中ですが、「わからない」からこそ、それに立ち向かう楽しさや多くの可能性を秘めているということだと思います。

立高での三年間を思いっきり楽しんで、そして広い世界に未来に踏み出して行ってください。